

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。
小学校で学習することをベースに作って
います。出来る出来ない関係なく、ご家
族でチャレンジしてみてください。会話
が広がります。

令和7年4月8日(火)

みんなの居場所

「挨拶」

校長の澤田 敦（さわたあつし）です。ごきげんよう！
誠に致します。4月に本
校に着任し、早速子どもたちや
保護者の皆様にお声掛け頂
き、嬉しく思います。

さて、私も保護者の一人とし
て皆様と一緒に色々な事に向
き合っていく覚悟です。また、
学校では「校長先生ってど
んな人？」とか「校長先生はいつ
も何はしよんなはって」とい
う会話を耳にすることがありま
す。それに答えるために、こ
のお役では私自身のことを綴っ
ていきたいと考えています。ま
た、これからの社会が変化して
いくに伴い、新しい情報の提供
や皆さんで考えて頂きたいこ
とについても、発信していくこ
とができれば良いなと考えていま
す。ところで、「笑読をお願いします」。

「みんなの居場所」というタ
イトルは、府本小学校が子ども
たちにとって、保護者の皆様にと
って、我々教師にとって、地
域の方々にわたっての安心できる
「居場所」となることを願って
付けました。それぞれ互いの
ことを思い、居場所づくりのた
めに何が出来るかを、主体的に
そして協働しながら考えていく
ことが大切だと思います。私も
微力ながら頑張らせて参ります。
感想をお聞かせいただければ幸
いです。（下欄）

新年度にあたり、少々生意気かとも思いましたが、私自身の戒めのためにも、ある
社会活動家の言葉を紹介します。

「おかげさまで」

夏が来ると冬がよいという 冬になると夏がよいという
太ると痩せたいという 痩せると太りたいという
忙しいと閑になりたいという 閑になると忙しい方がいいという

自分に都合のいい人は善い人だと誉め
自分に都合が悪くなると悪い人だと貶す
借りた傘も雨があがれば邪魔になる
金をもてば古びた女房が邪魔になる

世帯を持てば親さえも邪魔になる
衣食住は昔に比べりゃ天国だが 上を見て不平不満に明け暮れ

隣を見ては愚痴ばかり どうして自分を見つめないか
静かに考えてみるがいい いったい自分とは何なのか

親のお陰 先生のお陰 世間様のお陰の塊が自分ではないのか
つまらぬ 自我妄執を捨てて 得手勝手を手を慎んだら

世の中きつと明るくなるだろう
おれがおれが捨てて おかげさまでおかげさまでと暮らしたい

先に述べました通り、自戒の意味で毎年の始めにこの言葉を噛み締めています。
自分に降りかかるすべてのことは、自分を成長させてくれる大切なことばかりです。
それに対して不平不満ばかりでは成長は望めません。また、自己中心的な考え方も同
様です。私は自分を振り返り、何かしら思い当たること多く、恥ずかしいばかりで
す。併せて、「保護者として、自分の子どもに対する考え方はどうだったかと問うて
みました。」「あまりに過保護すぎないか。」「担任の先生と連携しているか。」「嫌に聞い
て是々非々が責められているか。」「私も教師の一人ですから、「先生方の指導の真意を
汲み取っているか」ということも考えました。私の両親の嫌は非常に厳しいものでし
た。」「あいさつ」「食べ物好き嫌い」「うそ」「お金のトラブル」「人に迷惑をかける」
等については特に厳しく、これらのことについて学校から連絡がある時は徹底的に
私を叱り、「息子が迷惑をおかけしました。」「と学校と連絡を断っていました。今では
母に対して「おかげさまで」といつ感謝の気持ちでいつかはいます。

シリーズ「自分を語る」#①

管理職になり「澤田先生ってどんな人？」
って質問をよく聞きます。私のことを知って
頂きた「シリーズ」自分を語るの無理やりス
タートです。ご笑読くださいませ。

早速第1回をお送りします。（〇歳から歳
頃：正直なところあまり覚えていません。）

私は昭和41年に生まれました。私の母は
死産と流産の経験があり、私の誕生は待望の
ことだったようです。父は益城町、母は西原
村の出身で、どちらも実家は農家でした。熊
本地震の時は片付けが大変でした。どちら
も働き者で、私が小学校の頃は、当然のよう
に鍵っ子生活を送るようになりました。待望
の子といつとて相当可愛がってくれたよ
うですが、愛情も強い反面、厳しさも半端で
しなかつたです。

父は自動車の運転をしません。自転車、バ
イクが主な移動手段でした。幼稚園に入る前
から、父の自転車で遊びに連れて行ってもら
っていました。私が幼少期を過ごした場所
は、熊本市にある新地団地です。それが長屋
だった頃、父は自転車であちこち連れて行っ
てくれました。また、徒歩も多かったよう
です。歩いて熊本市内に行ったり、立山に徒
歩で登ったりしていました。その他に思い出
すのは、竹馬、ゴム鉄、ばったり（鳥を捕
まえるための仕掛け）など、アウトドアの遊
び道具をよく作ってくれました。他には、風
揚げ、川釣り、沢かに捕り、簡掘り等々、ワ
イルドなころでは、家族のお祝いやお客さ
んがいらついたら時に、庭から鶏を捕ま
えてきて、美味しく頂くための作業を一緒に
したこともあります。こういった経験は、子
ども心に「楽しかったなあ、また明日遊ば
う」とか「生き物の命を頂くんだ。」って、素直
に思えました。今の時代は万物の有り難さを
忘れているような気がします。（つづ）